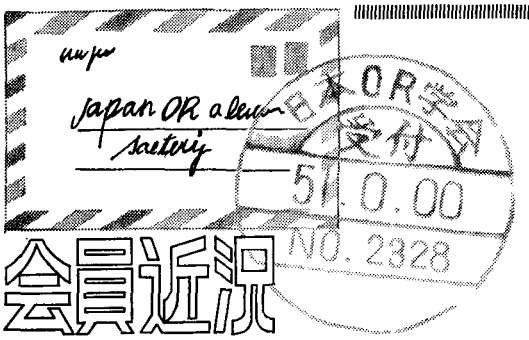

会員近況

(株)ソフトネット　鈴木　一行

コンサルタント業務のむずかしさ　OR学会に入会して15年，小さなソフトウェア会社を経営すること10年，売上高せいぜい年間1～2億のレベルから脱しきれず，コンサルタント業務の壁を痛感しています．(OR業務は売上高の1割ぐらい)

実務的ORと申してもやはり理論との調和とスピーディなレポートが要求されますのでついつい電算機利用に走りがちですが，最近の顧客の節約ムードで，電算機の答よりも問題へのアプローチ姿勢を評価するようになったのは，やはり時代の波があるようです．

5年以内に日本OR㈱(社員10名くらい)を設立したいと思っていますが，この環境ではたして？　というこのごろです．

電々中国・経調室　松尾　義明

総合科学的な問題　需要量の異なる品目が数万点もある場合に，どのように在庫管理をしていくべきであろうか．OR問題として最近取り組んだ問題がこれである．ABC分析をはじめとした初級の統計手法を使って，実態を調査し，いろいろな問題が発見された．

現場のORというのは，高度な数学を使った解析よりも，実態調査の実施のいかんによっていると思う．どの品物が死蔵品になっているのかを早く把握することが適切な在庫管理を可能にしている．ここで，在庫管理上欠かせない問題として，死蔵品についての判定基準とその処理基準の決定に関する問題がある．このような問題は，数学だけでは解けない．経済学や社会学あるいは生態学など総合科学的な問題として取り組まなければならない問題だと思う．企業の発展と社会環境の保全をうまく調和させながら進めてゆくためには，在庫管理上のこの種の問題が今後クローズアップされるように思われる．

日本タイムシェア
第2システム部　本橋　茂和

システムの世界とは　自分が現在コンピュータのシステム作成に参加していて，ふと思うことがあります．「畳となんとかは新しいほうがいい」などといいますが，これがシステムの世界では「新しくなければならない」ということです．

「常識」という言葉があります．しかし，昨日の常識は今日の常識ではない．今日の常識たり得ないものが明日の常識たり得るはずがないという話があります．10年後にも，なお新しい．それはシステムの質というものを決定的にする要素ではないでしょうか．車のモデルチェンジのような話がコンピュータにもあるようです．

システムというものは，実体がもともとあるのかないのかよくわからないようなもので，不確かなことこのうえもありません．ときどき，自分は何と異常な世界にいるのかと思うことがあります．

摂南大学
工学部経営工学科　黒沢　敏朗

ORとKJ法とIEと　今年の4月から，昨年に新設されたばかりの摂南大学に勤務しています．大阪府大大学院在学のころからのテーマである“適応的予測法”についてを引きつづき研究しています．研究対象とするのに格好の時系列は数多いのですが，モデルが追いつかないのが問題です．

他方，問題解決学としてのKJ法にも関心を持っています．ORも問題解決学としての性格を持っていますから，KJ法の考え方から学ぶものは多いと思います．KJ法での問題解決のステップに即していえば，モデルづくりから最適方策の探索というORのプロセスの前段階として，現状把握の方法としてのIE技法や本質をつかむ方法としての統計解析の手法を活用することが重要だと思われます．とくに，予備調査の段階で各種のIE技法をどしどしとりいれることが必要だと考えています．

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．

日本国有鉄道
経営計画室　塚本　広幸

国鉄とOR　50年7月，元東大学長の茅誠司氏が国鉄の理事に就任された．7月末の理事会で49年度決算報告があり，単年度で6,500億円，累積で2兆2,400億円の赤字について説明された．これに対して意見を求められた新任の理事は，「国鉄が止まったらたいへんな影響が出るのではないか，国鉄の果している役割はそんな赤字額に比べてはるかに大きいのではないか」という意味の返事をされた．話が発展して，ストの社会的影響の計測をORグループが担当することになった．

マクロ的に，国鉄がGNPの産出に寄与するウエイトを計測することを試みた．短絡的なモデルを考え，旅客輸送と貨物輸送が1日ストップしたときには，合計で1日あたりGNPの16%がおちこむものと推定した．

51年度は運輸調査局の協力のもとにSD研究のチームをつくり，国鉄の存在価値というような問題を解くことに目標をおき，いまは基礎的な研究につとめている．

最後に個人的なことを．〈渡辺茂，曼荼羅からSDへの道，bit 臨時増刊(システムダイナミックス)，1973年6月号〉を読んだことによって，仏典研究に1つの方向づけができたことを喜んでいます．

日本歯科医師会
調査室　福島　憲治

歯科疾患実態調査の分析から　数年来日本歯科医師会調査室で会務上の調査資料の推計学的分析に従事しています．定期的な仕事は歯科医院の経営実態調査や会員の年金・福祉事業のための入会・死亡者数予測等ですが，本来の課題は医療の社会的需要・供給関係をしっかりつかんだうえでの，将来の個人開業医の医療活動や経営方針のガイドラインを立てることです．

この問題は国民経済的あるいは地域医療システム構想等で大局的にはおさえられているが，さて，需要・供給関係のフローのネットワークを想像して人と金の流れをのせてみると，重要な結節点の出入量はおさえてあるが個々の要素の自律機能や適切なコントロール手段が未解決で，システム環境もよくわかっていないといえそうです．むろん日本の社会だけの問題ではありません．とにかく手のつくところからと思い歯科疾患実態調査の分析を進めております．

最近読んだイエヘッケル・ドロアの「政策科学のデザイン」(丸善)はおもしろい本だと思いました．

千葉県公害研究所
地盤沈下研究室　原　雄

地盤沈下問題に取り組む　OR学会に入会しまして，まだ2年目です．入会の動機も実に突飛でした．昨年のIFORSのフィールド・トリップを，お引き受けすることが先行した結果です．出身が地質屋ですので，それまではORは他人の世界のものと思っていましたが，フィールド・トリップをお引き受けすることと，もちまえの好奇心から入会させていただきました．

地盤沈下問題にたずさわって現在で6年目です．地盤沈下の被害は，はた目に気づいた時点では膨大な公共資本の損失が生じていることが特徴です．また，地盤沈下は地下水や水溶性天然ガスなどの過剰な採取が原因であり，この現象を生ずるメカニズムもかなりのところまではっきりさせてきました．

現在は，地盤沈下の被害を最小限(理想はゼロですが)にすることと，地下水や天然ガスの水資源およびエネルギー資源としての利用面を具体的な採取量をもって，どう調和させるかを考えています．

鹿島建設(株)
電子計算センター開発課　冨田　倫也

建設工事の特殊性とOR　建設工事の大型化にともなって，合理的・経済的な建設機械の運用をはかることが重要となり，ORの手法を適用しながらこの問題をできるだけ幅ひろく検討したいと考えております．

企業にとっては必要な品質を保証しつつ最経済的な工事遂行が至上命令であり，このことは他産業と異にするものではないと思われます．まさしく最適化というORの格好の問題となりますが，遺憾ながら建設工事の特殊性(大略受注生産，一品生産，属地生産の三点に起因する工事ごとの制約条件を持つこと)と小生の乏しい知識とによって満足すべき解決策を見いだす手段は初歩的，試行錯誤的な方法にならざるを得ないことになります．それでも，いくつかの数理計画の手法の試行によって実務上の問題と理論上の問題に直接触れることができたことは1つの成果といえますし，いろいろ検討すべき点が散在しているので，今後ともORの勉強とあわせながら地道に研究しようと意を固くしているところです．

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．